

千里浜海岸景観評価 その1

小松 暁 一

海岸景観概要

海岸保全の必要性とともに、一方では海岸領域の自然景観が保全施設と整備により損い勝ちな面も起り、保全のための土木工学技術を環境を整える創造の技術と考えるならば、海岸保全の機能面のみならず、周辺の自然環境との調和、融合をいかに図るかが重要なポイントになる。

すなわち、景観には、眺望やその美しさ、おもむきなどとともに自然と人間環境機能が混合している現実の姿があるが、この人工の構造物と自然、人間環境とが統一的な新たな美しさを生み出すことも景観の創造であると考え。

これを裏付ける意味で最近、景観助長という言葉が使われている。この言葉の意味は、格調のある景観環境を創造するための努力を意味するもので、自然に与える影響を評価しながら環境の維持や改善に具体策をもって、より一段の効果を発揮する姿勢を示すものとする。

石川県の海岸線を展望するとき、現在その海岸線の全延長575kmのうち66% (約379km) が自然海岸として残っており、このうち、約半分(188 km) が国定公園に指定されている。

しかし、この自然海岸のうち、近年めだつのは砂浜海岸の侵食の進行である。この事態を防ぐため各種の侵食防止施設が築かれ努力されているが、反面、自然海岸の特性である風景美や野外レクリエーション利用等の機能が損われる悩みは強く、新たな侵食防止と美観維持の対策が求められている。ここに本県の代表的な海岸である千里浜海岸の侵食性、保全計画と対応について海浜景観の助長に対する指標を検討してみたい。

調査地域の現状

千里浜海岸の調査対象地域は、押水町今浜か

ら羽咋市羽咋町にかけての延長約8 kmの砂丘海岸で汀線から砂浜までに平坦な海浜部(幅約30~80m)をもっている。

同海岸は能登半島国定公園にも指定されている白砂青松の景観の地は、夏季を中心に海水浴場、キャンプ地等の野外レクリエーションにも供されている。特に、海浜の砂粒の径は0.1~0.2 mmで粒の大きさがそろっており波打ちぎわでは海水がしみ込み砂をよく引き締める特質は大型自動車の交通も可能なため海浜は全国でも珍しい「なぎさドライブウエー」として観光資源となっている。

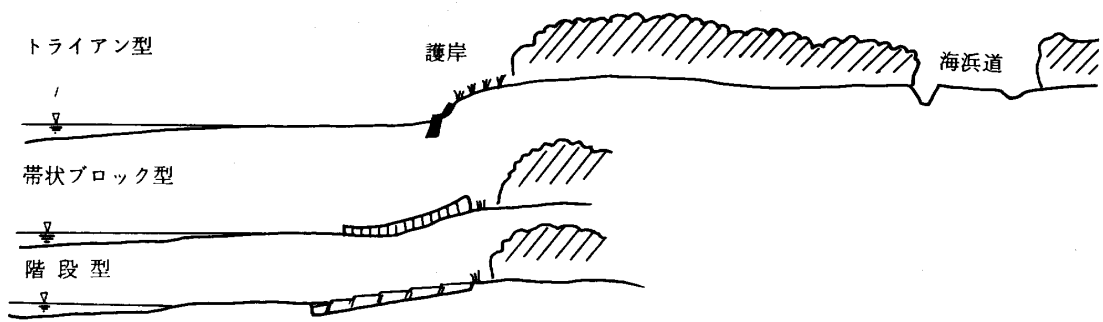
しかし、この「なぎさドライブウエー」も冬季の荒天下の波浪時には危険で、近年波浪による影響で砂浜部の減少がめだっている。調査によると冬季には平均約1 mの侵食状態にあるといわれ砂浜の現状維持に対する保全対策が早急に望まれている。

砂丘部は(幅80~150m)それほど極端な起伏はないが魅力ある形状と植生が注目される。

砂丘部は、能登有料道路によって分断されているが、砂丘には、ハマナス、ハマエンドウ等の海浜植物群、松林や雑木林もあり、また砂丘部の背後地はクロ松林、農耕地が連なり自然景観として保全価値が充分と成立する。

海、海浜利用としては、地元の漁業組合による漁獲活動、前記の「なぎさドライブウエー」、海水浴場、釣り場、網引き等のレジャーに利用され多くの県内外の人々を集めている。夏季の海水浴場は主として今浜、志雄、羽咋の三地点に集中し組合によって仮設の浜茶屋、売店等が建ち並び運営されている。

砂浜地の利用としては、羽咋川の対岸には能登千里浜国民休暇村の施設があり、千里浜なぎさ沿いには、市営(羽咋市)、民間のレストハウ



ス、宿泊施設が数か所ある。松林を利用したのキャンプ地、遊園施設もあるが、いずれも、小規模のものである。

その他の現状要素としては、海岸汀線に抜ける小河川、排水路が数か所存在している。また海岸より海に向かっては視界は広く、海底状況も遠浅な特性をもっている。

砂丘保全施設としては、現在主として4種の形状施設によって補強対策がとられている。

- | | |
|-------------|--------|
| ① トライアン型護岸 | 5,740m |
| ② 階段型護岸 | 1,870m |
| ③ 帯状ブロック型護岸 | 980m |
| ④ 垂直型護岸 | 140m |

護岸の景観的影響としては、護岸が砂丘前面に築かれるため海浜植生に対する影響もあり、特に階段及び帯状ブロック護岸の影響が大きく、トライアン型が最も少ないとされている。風景と調和といった点でもトライアン上部のじゃ籠護岸が最も調和している。

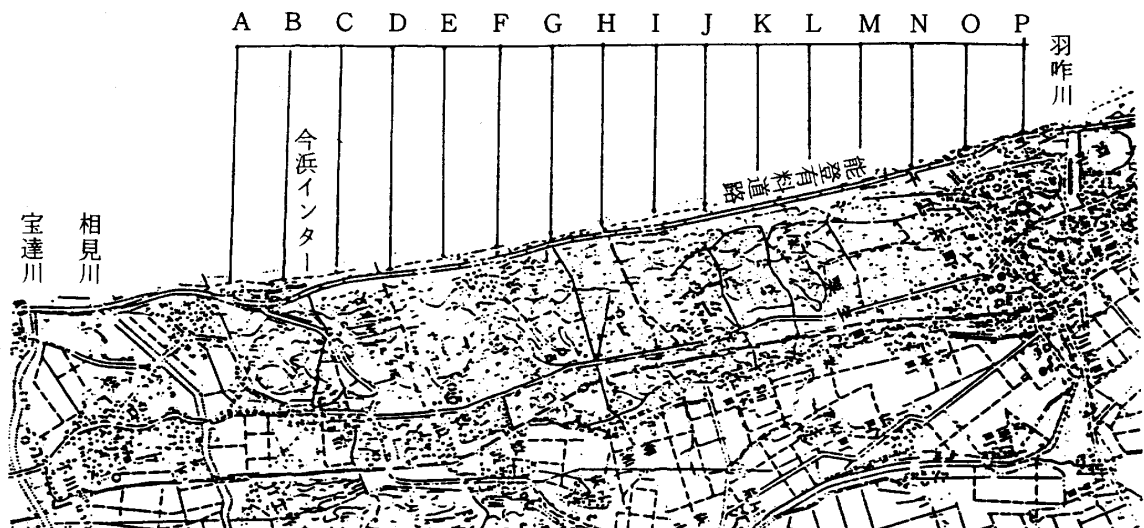
また、部分的には、砂防ネット、柵、砂防林が設置されている。

現地海岸海浜部測量

千里浜なぎさ沿い約8kmの海浜部の現状測量を実施する。測定点は、なぎさ全長(約8km)16地点の汀線より砂丘に至る距離の測定であるが、地点と地点の間隔は500mとする

(昭和58年11月7日測定)

- | | | |
|-----|------|----------------------|
| A地点 | 約25m | 今浜町押水漁業協同組合網干場横海浜付近 |
| B地点 | 約30m | 今浜インター橋前方海浜 |
| C地点 | 約30m | ビラ千里浜前方海浜 |
| D地点 | 約30m | 千里浜カントリークラブ前方海浜 |
| E地点 | 約35m | 千里浜カントリークラブ～静風荘中間点海浜 |
| F地点 | 約40m | レストラン海楽苑前方海浜 |
| G地点 | 約40m | F地点より500m羽咋より |



海浜

H地点	約50m	志雄町小流水路海浜
I地点	約40m	羽咋市志雄より流水路海浜
J地点	約30m	羽咋市大型流水路海浜付近
K地点	約45m	羽咋市海岸石垣構築出入口 付近
L地点	約35m	千里浜インター前方海浜
M地点	約55m	L地点より千里浜レストハウス寄り500m 海浜
N地点	約60m	千里浜レストハウス前海浜
O地点	約60m	羽咋自動車学校前方海浜
P地点	約70m	羽咋川左岸500m 海浜

上記の測定した日は晴天であったが風は強く波浪による汀線と砂丘の距離測定には多少の差は認められた。

景観評価資料作成

(1)現地地上写真撮影 (スライド含む)

- A 千里浜海岸約 8 kmを500m 間隔を15区分16地点を設定
- B 1地点の汀線より左右の砂丘に向って2枚の風景を撮影する。
- C 景観評価資料となるよう区間ごとに風景写真を接続修整する。
- D この写真資料, スライド資料をもって集団反応装置を用い, 評価分類標に基づき評価数を出す。

(注) 春, 夏, 秋, 冬と季節の特性を獲えるため現在も撮影を続行中であるので, 四季の資料を整え評価数を出すこととする。

(2)アンケートによる意識調査

千里浜海岸の景観や保全対策に関し来浜観光社や羽咋市, 志雄町, 押水町の地元の人々がどのようなイメージと認識を持っているかをアンケートによって調査し景観助長対策の資料とする。

アンケート内容は, イメージ, 利用度, 保全, 管理の4つの要素より具体的に項目をあげ観光者には直接対面調査, 地元の人々には配布回集の形求によって指摘していただくことかできた。

来浜観光者アンケート調査

(100名対面 解答者84名)

主な質問, 解答

- (1)「千里浜海岸」の名前を御存じでしたか。

(はい)	59名	70.2%
(いいえ)	25名	29.8%
- (2)千里浜なぎさドライブウエーが約8kmあることを御存じでしたか。

(はい)	25名	29.8%
(いいえ)	59名	70.2%
- (3)海浜として珍しいと思われますか。

(はい)	72名	85.7%
(いいえ)	9名	10.7%
(わからない)	3名	3.6%
- (4)千里浜海岸の全体的印象はどうですか。次のうちから選んでください。

自然性が高い。	23名	27.4%
雄大である。	38名	45.2%
規模が大きい。	7名	8.3%
変化に富んでいる。	1名	1.2%
統一がとれている。	3名	3.6%
形状が美しい。	12名	14.3%
- (5)レクリエーションの場として親しみを感じますか。

(はい)	68名	81.0%
(いいえ)	8名	9.5%
(わからない)	8名	9.5%
- (6)なぎさドライブウエーに魅力を感じますか。

(はい)	71名	84.5%
(いいえ)	8名	9.5%
(わからない)	5名	6.0%
- (7)護岸ブロックに気付かれましたか。

(はい)	19名	22.6%
(いいえ)	65名	77.4%
- (8)案内標識に気付かれましたか。

(はい)	43名	51.2%
(いいえ)	41名	48.8%
- (9)もっと案内標識があった方がよいと思われませんか。

(はい)	66名	78.6%
(いいえ)	18名	21.4%
- (10)レストハウスの美観はよいと思いますか。

(はい)	54名	64.3%
(いいえ)	14名	16.7%
(わからない)	16名	19.0%
(11)遊園施設がもっとあった方がよいと思はれますか。		
(はい)	49名	58.3%
(いいえ)	31名	36.9%
(わからない)	4名	4.8%
(12)周辺の景色や環境はよいと思はれますか。		
(はい)	75名	89.3%
(いいえ)	5名	5.9%
(わからない)	4名	4.8%
(13)ここでは人工的だなあと感じますか。		
(はい)	11名	13.1%
(いいえ)	70名	83.3%
(わからない)	3名	3.6%
(14)千里浜海岸を厳正に保護すべきと思われませんか。		
(はい)	77名	91.7%
(いいえ)	6名	7.1%
(わからない)	1名	1.2%
(15)また来たいと思われませんか。		
(はい)	79名	94.0%
(いいえ)	3名	3.6%
(わからない)	2名	2.4%
(16)対面者性別		
男性	50名	59.5%
女性	34名	40.5%
(17)対面者年齢		
20代	36名	42.8%
40代	15名	17.9%
50代	19名	22.6%
60代	14名	16.7%
(18)千里浜海岸は何回目ですか。		
初回	44名	52.4%
2回	14名	16.6%
3回以上	26名	31.0%

地元アンケート調査

(300名解答予定 解答者 214名)

23問のアンケートをお願いしたが、次に主な質問解答を記載する。

(1)千里浜なぎさドライブウエーが約8kmあることを御存じですか。		
(はい)	168名	78.5%
(いいえ)	46名	21.5%
(2)千里浜を身近なものとして親しみをおもちですか。		
(はい)	183名	85.5%
(いいえ)	24名	11.2%
(わからない)	7名	3.3%
(3)千里浜海岸は地域を特徴づけるシンボルであると思いませんか。		
(はい)	188名	85.5%
(いいえ)	16名	7.5%
(わからない)	15名	7.0%
(4)あなたは色々なレクリエーションに千里浜を利用していますか。		
(はい)	96名	44.9%
(いいえ)	118名	55.1%
(5)海岸の自然環境は高いと思いませんか。		
(はい)	130名	60.8%
(いいえ)	54名	25.2%
(わからない)	30名	14.0%
(6)海、海浜、砂丘)どれに魅力を感じますか。		
海	54名	25.2%
海浜	120名	56.1%
砂丘	40名	18.7%
(7)なぎさドライブウエーはあった方がよいと思いませんか。		
(はい)	173名	80.8%
(いいえ)	28名	13.1%
(わからない)	13名	6.1%
(8)千里浜海岸は強く侵食されていると感じますか。		
(はい)	159名	74.3%
(いいえ)	13名	6.1%
(わからない)	42名	19.6%
(10)海岸の清潔度、衛生度は管理されていると思いませんか		
(はい)	31名	14.5%
(いいえ)	127名	59.3%
(わからない)	56名	26.2%
(11)車による安全性は現在のままでよいと思いま		

すか。

(はい)	48名	22.4%
(いいえ)	117名	54.7%
(わからない)	49名	22.9%

(12)レストハウスやその他の構造物（遊園施設、看板、案内標識）等の美観についてどう見られますか。

風景に調和している。	71名	33.2%
風景に調和していない。	70名	32.7%
わからない。	73名	34.1%

(13)今後とるべき対策は、次のいずれだと思えますか。

千里浜海岸を現状のまま厳正に管理保護すべきと思う。

94名 43.9%

適正な漁業やレジャー利用を考えた保全を考えるべきである。

103名 48.1%

特に対策を講ずる必要はない。

17名 8.0%

アンケート調査解答まとめ

来浜観光者関係

千里浜海岸の知名度は高い（70.2%）ものの、なぎさドライブウェイ海浜距離 8 km の認識は低く（70.2%）海浜砂粒の特質を知らない人が多かった。

周辺の景色や環境に対する反応は、自然性が高くスケールの雄大さを含み（72.6%）評価があり、なぎさドライブウェイに対する魅力（84.5%）は強かった。

環境の保護にも積極的な意見（91.7%）もあり、またの来浜を望む人々は94%の高率を示している。

この結果をみても今後、千里浜海岸環境をいかに魅力あるものとして維持していくかが観光面からみて重要であることが伺える。

地元のアンケート調査関係

地域の人々は千里浜を身近なものとして親しみ（85.5%）を抱き、地域のシンボルと思う

（87.9%）意識は非常に強いが、現実その利用度となると44.9%と予想に反し利用度が低い。

自然環境に対する評価は60.8%あるが将来に対する心配性が40%もある。特に、海浜の侵食性に対する危機感74.3%と高い。

海岸の清潔度、衛生度に対する管理面を指摘する人も、わからないの回答を含め約85%もあったことは、今後の海岸管理に対する強い指標になると思う。

なぎさドライブウェイの安全性を求める声も強い（77.6%）が、なぎさドライブウェイはあった方がよいという意見が80%を超えているので、これらの問題点を考慮し管理運用面が問題として残る。

総合的な意見としては、保護性を強く配慮しながら今後の保全の姿や、活用方法を考え積極的に取り組む姿勢が望まれていることが認められる。

千里浜海岸におけるレストハウス、案内標示、看板、諸構造物等の美的な景観要素の改善を指摘する人も、「わからない」を含め66.8%とかなり高いので、規制の強化のなかに造型的なエレメントに対する企画に一段の工夫が求められる。

※この評価文は石川県環境部自然保護課の協力によって、自然海岸保全対策調委員会が昭和59年3月に提出した私の報告書の一部である。

（本学 産業美術学科教授）

〔昭和59年12月20日受理〕



千里浜浸食状景（冬期）



悪 景 観 例



海浜小水路状況